

## 千葉県におけるキャリア教育の在り方について ～ゆめを抱き、明日を拓くちばっ子の育成を目指して～

### <キャリア教育とは何か>

キャリア教育は教育活動全体を通じて、「学ぶこと」・「働くこと」・「生きること」を密接に関連付けて展開することにより、子どもたちの全人的な発達を支援する取組であり、将来、社会人・職業人として自立していく上で必要な力や勤労観・職業観を身に付けることを目的とした教育です。

例えば、職場体験等に限らず、日常的に学校で行われている学習活動や家庭でのしつけなどのすべての活動・体験は、キャリア教育としてとらえ直すことができます。

### <なぜ、今、キャリア教育が必要なのか>

人はだれしも、この世に生を受けたその日から、無数の体験を重ねながら成長し、その中から夢を描いていきます。時には夢破れ、途方に暮れることもあるかもしれませんが、それを乗り越え、自らの選んだ生き方に喜びを見出すことができた時、人は人生をより充実したものと感じることはできるはずです。

しかし近年、我が国では雇用形態が多様化するなど、働く環境は厳しさを増しています。また、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、学ぶこと、働くこと、生きることについて考える機会を十分に持てないまま進学・就職し、結果として早期に離職してしまうケースも多く見られます。

このような状況にあって、「働く」ことにより社会の一員としての役割・責任を果たし、社会に貢献していくことは、一人一人が将来充実した人生を送るためにも、社会全体が発展していくためにも大切です。そして、子どもたちにそのような意識を醸成するため、発達段階に応じたキャリア教育を行うことが一層重要になっています。

### <キャリア教育を推進するために>

千葉県教育委員会では、平成19年7月に策定した「千葉県教育の戦略的なビジョン」において、子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育の推進を重点取組の一つとして掲げました。また、「学校教育指導の指針」においても平成18年度から重点取組の一つとしてキャリア教育を掲げています。さらに平成17年度から千葉県キャリア教育推進協議会を設置し、本県で進めるキャリア教育の基本的方向性や具体的方策等について、様々な立場の委員からご意見をいただきました。

そしてこれらを踏まえ、学校・家庭・地域それぞれに期待される役割を整理した上で、学校が家庭・地域と連携しながら社会全体で「働く意味や楽しさがわかる千葉県ならではのキャリア教育」に取り組んでいくため、「千葉県におけるキャリア教育の在り方について」をまとめました。

これにもとづき、千葉県教育委員会は、学校の実態や地域の特性に応じて効果的にキャリア教育が展開され、子どもたちの「生涯を通じて自立した社会生活を送ることのできる人間力」、「社会で役立つという意識」を育成することを目指して、さらに実効性のある施策を推進していきます。

## < 1. キャリア教育の担い手 >

(1) 学校が家庭・地域と密接に連携し、社会全体でキャリア教育を推進する。

### ○学校・家庭・地域それぞれに期待される役割

キャリア教育は、学校・家庭・地域のすべてがその担い手として、総がかりで取り組む必要があり、それぞれ主として以下のような役割が期待される。

- ・ 学校は、校内での教育活動や校外での体験学習の機会を通じて、基礎学力や規範意識の定着を図り、子どもたちの発達段階に応じて「学ぶことと生きること」、「学ぶことと働くこと」の間に密接な関係があることを理解させ、現在の課題や自己の将来を考えさせる。また、集団生活を通じて、人間関係を形成し、協力してものごとに取り組むことを経験させる。
- ・ 家庭は、日常の生活や体験活動を通じて、家族や他者の役に立つことの充実感、家族や他者に感謝する気持ち、家族や他者から感謝される喜び、大人に対する尊敬の気持ちをはぐくみ、市民生活のために必要な習慣を身に付けさせる。また、「働くこと」について語り合う機会を積極的に持つことで、子どもたちに将来の生き方を考えさせ、自立心を育成する。
- ・ 地域は、職場体験・就業体験やボランティア活動などの場を提供するとともに、子どもたちを地域の宝として、各家庭だけではなく、地域全体で育てていく環境づくりをすすめる。

### ○学校・家庭・地域が連携したキャリア教育の推進

キャリア教育の推進に当たっては、学校が主体となりつつ、家庭・地域と相互に連携して以下のような取組を行うことが必要である。教育委員会は、これらの連携が促進されるよう、例えば市町村や学校に推進協議会を設置するなど、推進体制を整備する。

- ・ 学校や教育委員会は、家庭や地域が、キャリア教育の重要性についての理解を深め、連携してこれを進められるよう、積極的に情報発信する。
- ・ 家庭は、学校行事や地域において様々な世代が参加する活動に積極的に参加するなど、人間関係づくりの基盤の形成に努める。
- ・ 「地域の子どもたちは地域で育てる」という視点のもと、企業・商店等は、学校との連携を深め、協働による体験学習や授業の実施に協力する。

## <2. キャリア教育の推進方策>

(2) キャリア教育を、教育課程の中に適切に位置付ける。

### ○各学校種一貫したキャリア教育の推進

- ・ 学校は、校種間（特別支援学校においては学部間）の連携や一貫性に留意し、発達段階に応じて人間関係の形成、情報の活用、将来設計、意思決定等、一人一人の子どもたちのキャリア発達を支援する。

### ○全体計画、年間指導計画への適切な位置付け

- ・ 学校は、校長が中心となり、様々な教育活動が子どもたちのキャリア発達にどのような影響を与えていくのかを考えて全体計画、年間指導計画を作成するなど、各学校の教育課程にキャリア教育を適切に位置付ける。  
また、障害のある子どもたちについては、個別の教育支援計画及び個別の指導計画にもとづき、個に応じたキャリア教育の指導に努める。

### ○キャリア教育の指導事例の提供

- ・ 教育委員会は、学校にキャリア教育の教育課程への位置付けや、企業、NPO法人等との連携の在り方などに関する実践事例を収集・提供し、キャリア教育の推進を図る。

(3) キャリア教育は、すべての教育活動を通じて推進する。

### ○教育活動を横断したキャリア教育の推進

- ・ 学校は、指導計画に基づくキャリア教育の実施段階にあつては、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間における指導において、例えば、専門教育に関する科目を活用することなども検討しつつ、キャリア教育の観点から一層効果が上がるよう、指導の工夫や改善を図る。

### ○事前・事後指導の充実

- ・ 学校は、体験学習を行う際には、その意義や目的を明確にして、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間と関連付けて、事前・事後指導の充実を図り、総合的・効果的に展開する。

### ○キャリアに関するカウンセリング等の充実

- ・ 学校は、進路指導を質的に充実するなど、キャリアに関するカウンセリングの機会を確保し、子どもたちが主体的に、現在及び将来の生き方を考え行動することができるよう、一人一人の子どもたちのキャリア発達を支援する。

#### (4) 多様な人材を活用した組織的・系統的な学習活動を充実する。

##### ○多様な人材を活用した学習活動の一層の充実

- ・ 学校は、企業、NPO法人等の協力により、外部から講師を招いて授業を展開するなど、多様な人材を積極的に活用する。
- ・ 学校は、子どもたちの発達段階に応じ、下記のような体験学習等の機会を提供する。実施にあたっては地域の企業、商店、ハローワーク、大学等の上級学校などとの協力関係の構築を進め、その実施内容の充実や実施期間の拡充に努める。  
  
(例) 小学校 : 「ゆめ・仕事ぴったり体験」(半日程度の就業密着観察学習)  
中学校 : 「キャリア・スタート・ウィーク」(連続5日間の職場体験)  
高等学校 : インターンシップ等の就業体験、上級学校における体験学習、資格取得のための補習の実施等  
特別支援学校 : 産業現場等における実習、「障害者就労支援基盤整備事業(厚生労働省)」の「障害者就労アドバイザー」の活用等
- ・ 学校は、第一次、第二次、第三次産業のそれぞれが発達し、様々な分野の専門家が活躍し、キャリア教育の人材に恵まれている千葉県の利点を生かし、これらの人材を活用して、様々な産業の魅力、意義を子どもたちに理解させる。

#### (5) キャリア教育の担い手の育成・拡大に努める。

##### ○教職員の研修の充実

- ・ 教育委員会は、キャリア教育を進めるために必要な知識や指導技術など、実践的な内容の研修を積極的に実施し、キャリア教育を推進する際の中核となる教員の能力の養成に努める。
- ・ 学校は、キャリア教育に関する研修修了者を講師として校内研修を実施するなど、教職員の指導力の向上に努める。

##### ○家庭・地域社会の啓発活動の充実

- ・ 教育委員会は、子どもたちのキャリア発達の重要な担い手である家庭・地域に対して情報発信し、様々な機会を通じてキャリア教育の重要性を伝え、理解・協力・参加を得るよう努める。

##### ○地域コーディネーターの育成

- ・ 教育委員会は、学校と地域との連携促進のため、教育を核とした地域コミュニティづくりに関する事業等を活用し、キャリア教育を推進するための地域コーディネーターを育成する。

## キャリア教育Q & A

### Q 1 キャリア教育とはどのような教育ですか？

A 一般的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と定義されています。千葉県では「学校教育活動全体を通じて『学ぶこと』『働くこと』『生きること』を密接に関連付けて展開することにより、子どもたちの全人的な発達を支援する取組」と定義し、その推進に努めています。

### Q 2 なぜ、キャリア教育の推進が求められているのですか？

A 近年、働くことに対する若者の関心や意欲の低さ、目標意識や責任感の希薄化、基本的マナー等の欠如、対人関係能力の未熟さなどを指摘する声が少なくありません。子どもたちの「なぜ勉強しないといけないの？」「なんで働かないといけないの？」という疑問に対する答えを子どもたち自身が見つけ、意欲的に日々の学校生活に取り組むことができるようにするためにも、教師、保護者、地域の方々などの大人たちが協力し合ってキャリア教育を推進する必要があります。

### Q 3 小学校段階からのキャリア教育ということですが、 小学生のときから将来の職業を決めさせるのですか？

A キャリア教育は、小学校段階から自分の将来を決めさせ、それだけを目指にさせるというものではありません。小学生には小学生として身に付けることが望ましいキャリア発達のための態度や能力があります。それぞれの発達段階に応じて、将来、自らの進路を決めるときや将来の社会人として身に付けておきたい態度や能力を身に付けさせていくことが必要です。

### Q 4 職場体験を実施すればよいのですか？

A 職場見学や職場体験、就業体験などの体験学習は、キャリア教育を進めていく上で有効な学習活動です。しかし、あくまでもそれは一つの手段であって、キャリア教育のすべてではありません。キャリアに関する学習が、教科・領域の学習や主体的に学ぼうとする意欲の向上に結びつき、教科・領域の学習がキャリアに関する学習への関心や意欲の向上につながるという、「相互補完的な関係」にあることをしっかり理解しておく必要があります。

### Q 5 各教科・領域等においてもキャリア教育はできますか？

A 将来の進路や職業に直接的に結びつく題材ではなくとも、各教科・領域等において、子どもたちのキャリア発達に関わる諸能力（「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」）の育成という観点に照らしつつ、計画的な授業展開を行うことが大切です。

### Q 6 進路指導との違いは何ですか？

A 進路指導はキャリア教育の中核をなすものです。従来が進路指導では、「進路決定の指導」や、子どもたちの適性と進路や職業・職種との「適合」に主眼を置いた指導が中心でした。キャリア教育においては、それに加えて、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築く力やコミュニケーション能力など、社会への「適応」に係る幅広い能力を子どもたちが身につけられるよう支援していくことを重視しています。

### Q 7 本校ではほとんどの生徒が進学するのですが、キャリア教育は必要ですか？

A 子どもたちは、いつかは学校から社会へと巣立って行きます。しかし、社会人として必要とされる様々な能力や態度は、一定の年齢に達したり、学校を卒業すれば自動的に身につくというものではありません。また、当然のことながら、学校の役割は子どもたちを次の進路先に送り出しさえすればよいというわけでもありません。卒業後の進路が進学なのか就職なのかにかかわらず、全ての子どもたちの発達段階に応じた支援が必要です。